

ミカドONLINE

ミカド電装の情報サイト
ミカドONLINEはこちらから



北海道で風力発電の大量導入が可能に！ 世界最大級の蓄電池システムを当社社長が見学



世界最大級設備の蓄電池はGSユアサ製

今年の2月、北海道の宗谷地区でユーラスエナジーホールディングスのグループ会社が建設した2つの風力発電所が竣工しました。これらの発電所は風の強い稚内・豊富・中川地域に分散しており、発電した電力は一か所に集約されて独自に整備した送電線で南方面の電力系統へ送られます。

風力発電特有の出力の不安定さを調整するために重要な役割を果たすのが、豊富町にある世界最大級の蓄電池設備です。この施設は発電量が多いときは電気を貯め、不足時には放電して、電力の流れを安定させる「電力のクッション」のような働きをします。この組み合わせによって、変動の大きい再生可能エネルギーを安定的に大量導入するモデルが可能になり、宗谷地域は脱炭素社会の先進事例として全国から注目され始めました。

その大規模蓄電池設備で採用されているのがGSユアサ製のリチウムイオン電池です。GSユアサが提供した蓄電池は、厳しい寒冷地でも安定稼働する設計で、セル電圧や温度を個別に監視できるシステム(STARELINK)を搭載。ま

た、GSユアサではこの施設の設計・製造から遠隔監視・保守サービスまでを一括提供しており、日本の再エネ大量導入を支える重要な技術基盤のひとつになっています。

沢田秀二社長の「大規模蓄電池設備」見学記

6月12日に北豊富変電所の見学会に参加してきました。建屋内には幅約2mのリチウムイオン蓄電池盤3840面が整然とならんでいる姿は圧巻で、端まで見渡せないほどの壮大さでした。GSユアサは毎日21万個すべての電池モジュールから吸い上げた各データを確認して不具合の兆候がないか、正常に運転されているかを監視しているそうです。GSユアサの総合力を肌で感じられるすばらしい見学会でした。



北海道北部風力発電株式会社



「エネルギーマネジメント最新事情」の新着記事はこちら▶

ミカドONLINEは再生紙を使用しています。

《 雑学・小ネタや
当社の話題を
編集部が
ピックアップ!! 》

ミカドアラカルト



知ってる人には懐かしい？ rpmはアナログレコードの回転数

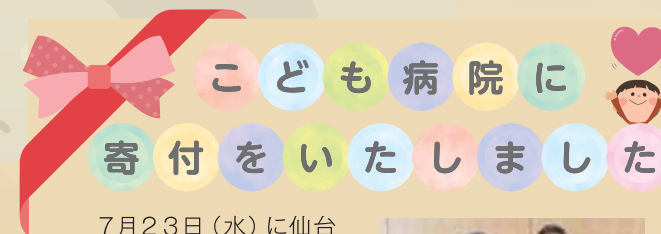
rpm(アールピーエム)は、英語の"revolutions per minute"または"rotations per minute"の略で、「1分あたりの回転数」を意味します。たとえば、LPレコードは33 1/3 rpm、EP(シングル盤)は45 rpm、さらに古いSP盤は78 rpmで回転します。回転数が遅いほど、1周あたりに刻める溝が細くなり、再生時間が長くなる傾向がありますが、音質にはそれぞれ一長一短があります。



ちょっとしたトリビアですが、33 1/3という一見中途半端な数字は、実は電力事情と密接に関係しています。60Hzの電源周波数を使ってモーターを安定的に回す際に、33 1/3回転という速度が理想的だったのです。つまり、この数字には技術的な裏付けがあるんですね。レコードの世界には、こうした工学と音楽の絶妙なバランスが詰まっています。



「単位の歴史」他の記事はこちら▶



7月23日(水)に仙台市青葉区落合にある『地方独立行政法人 宮城県立子ども病院様』へ寄付金を持参し、贈呈させていただきました。

同病院は、小児医療の専門拠点として高度な医療を提供するとともに、多くの子どもたちとご家族を支える重要な存在です。

当社は、社員へのアンケート結果を元にそうした医療機関の活動に少しでも貢献したいとの思いから寄付を実施いたしました。寄付金額が定められた基準に達し、前回より病院内の銘板「感謝の樹」へプレートが設置されました。

当社は社会貢献の一環として、今後も地域や医療の団体に寄付を行ってまいります。



今泉理事長(左)と当社代表 沢田

スタッフ紹介

ミカド電装商事株式会社
野坂佳代さん(業務部)



GSユアサから「フロントシフト」という出向制度でミカド電装商事に配属となりました。生まれは富山県ですが、父の転勤で小学生の頃に仙台に来て以来、ずっと仙台で暮らしています。GSユアサでは、最初は自動車用電池、その後は産業用電池の営業事務を担当していました。実は、メーカーの立場からミカドさんの発注を手配していたので、営業部の方たちとは電話でいつもやりとりをしていたんです。まさかその皆さんと一緒に働くことになるとは。ですので不思議なご縁だと思います。

これまではずっと伝票上のやりとりが中心だったので蓄電池などの製品をあまり見たことがありませんでした。今は製品をより身近に感じられるようになりましたので、この環境でさらに知識を深め、皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思っています。



実は補助金サポートに半信半疑でした ですが今は本当にやってよかったです

イケダ工機株式会社（宮城県角田市）

代表取締役社長 池田 広史 様

聞き手 ミカド電装商事株式会社 沢田 秀二



こちらが昨年更新したエアコンです



工場内をくまなくご案内いただきました



自社開発の自動圧入ロボットについて説明を受けています

てみないか、と誘われたんです。それが今の事業のきっかけです。

沢田 今までとはまったく異なる仕事なのに、思い切った決断でしたね。

池田 そうですね。うちの父はユニットアッセンブリのノウハウがなかったので、当初は東北リコーさんから立上げのご支援をいただいていたと聞いています。やがて、できるだけ手前の段階からお客様の手伝いをさせていただくことで事業としての独自性が高まり、それが今に至っています。私の代になってからは医療機器用のハーネス生産や食品加工業界で使用する自動包装機のユニット生産なども手掛けています。また、この工場をつくるときに導入したTPICSという生産管理システムの導入コンサルなども行っています。

沢田 なるほど。私もミカド電装商事も何度か取り扱い商品を大きく変えてきた歴史があります。とても共感できるお話ですね。

半信半疑でしたが、やってみて「楽ちんだ」と思っていました

沢田 当社の補助金サポートを活用された感想をお聞かせください。

池田 ミカドさんに初めてお目にかかったのはサンユウさん（設備業／本社青葉区折立）のご紹介でしたよね。

沢田 はい。同社の佐藤社長にうちでやっている補助金サポートの件をお伝えしたら、ほどこなくイケダ工機さんを紹介してくださったんです。

今回は宮城県角田市のイケダ工機株式会社様をご訪問いたしました。イケダ工機様は当社のサポートにより宮城県と経済産業省の補助事業に採択され、事業費約240万円（税抜き）の空調設備の一部入れ替えに対し6割以上の補助を得て、昨年12月に工事を完了されました。当社代表の沢田秀二がイケダ工機代表取締役の池田広史社長にお話を伺いました。

【宮城県】令和6年度みやぎ二酸化炭素排出削減支援事業

補助率：設備費＋工事費の1／2

【経産省】令和5年度補正予算省エネルギー投資促進支援事業

補助率：設備費の1／3

ユニット部品の組み立て工程を 事業にしている工場です

沢田 昨年エアコンを更新されましたが今年の夏はいかがでしたか？

池田 快適でした。ずっと不調でしたの

で、あのままなら私、ラインの皆さんに今ごろ何を言われていたかわかりません（笑）。働く環境はやはり大事だと思えます。中の人たちだけでなく、ハローワークの求人を見て職場見学に来てくださった方の第一印象もよくなりますの



補助金活用のいきさつや業務内容をお話される池田広史代表取締役社長様

池田 空調はこの工場を建てた1998年からのものだったので、最近調子が悪くてずっと気になっていたんです。それにうちは環境系のISOを取得しているのでCO2削減にも取り組んでいかなければなりません。今回利用した省エネ設備導入の補助金は知っていたのですが、自社で申請に取り組むと準備が大変で負担が大きいことを過去に経験していたので業務の状況的に「今は無理」と考えていました。



当社代表の沢田（左）と池田広史社長（右）

らしいです。

沢田 ありがとうございます。うれしいです。お客様の困りごとを「困りごと」にしないのが私どもの仕事なので、私を含めたメンバー内でその辺を常に話し合っているんです。今期も残りのエアコン更新で補助金を申請していましたが、先日採択が決まりましたね。今回の様に設備業や建設業の皆様の顧客サービス強化にも、補助金が活用できることを知っていただき、そちらをサポートさせていただくことで我々と同じ中小企業のお役に立ちたいと思っています。本日はありがとうございました。これからどうぞよろしく願いいたします。

お問い合わせは

ミカド電装商事

TEL 022-256-8191

で、人の募集も年々大変になってくる中で助かっています。

沢田 御社の主な業務は複写機の「ユニット組み立て」とのことですが、これはどういったプロセスなのですか？

池田 複写機には定着ユニットとか排紙ユニット、転写ユニットなど、様々なモジュールがあります。それらを組み立てる仕事で、業界ではアッセンブリと呼ばれると思います。たとえばメーカーさんから特定のユニットのご注文をいただく、まず生産計画を立てて必要な部品を協力会社さんに発注し、生産管理システムで納期設定やスケジュール管理をしながら、ここで組み立てたユニットを納品する……というのが、ざっくりとした説明になります。だから複写機の本体をつくっているわけではありませんし、何かの加工を行うわけでもありません。あくまでも「組み立てる」のが弊社の仕事なんです。それに複写機といってもオフィスにあるような複合機ではなく、もっと大きくて印刷会社さんとかが使うようなものです。オフィスサイズの量産品は、今はすべて海外でつくっているんです。

沢田 なるほど。付加価が高い生産を行っているらしいですね。スタートはお父様が始めた東北リコーの協力工場と伺いましたが。

池田 はい。今もメインのお客様です。私の父は元リコーで資材を担当しており、そこから独立をしてベアリング商社をやっていました。その後、東北リコー（現・リコーインダストリー）の協力工場としてユニットのアッセンブリをやっ